

令和7年(2025年)職場における熱中症による 死傷災害(休業4日以上)の発生状況

＜神奈川県労働局管内 令和8年4月8日時点暫定値＞

1 熱中症による死傷者数の推移

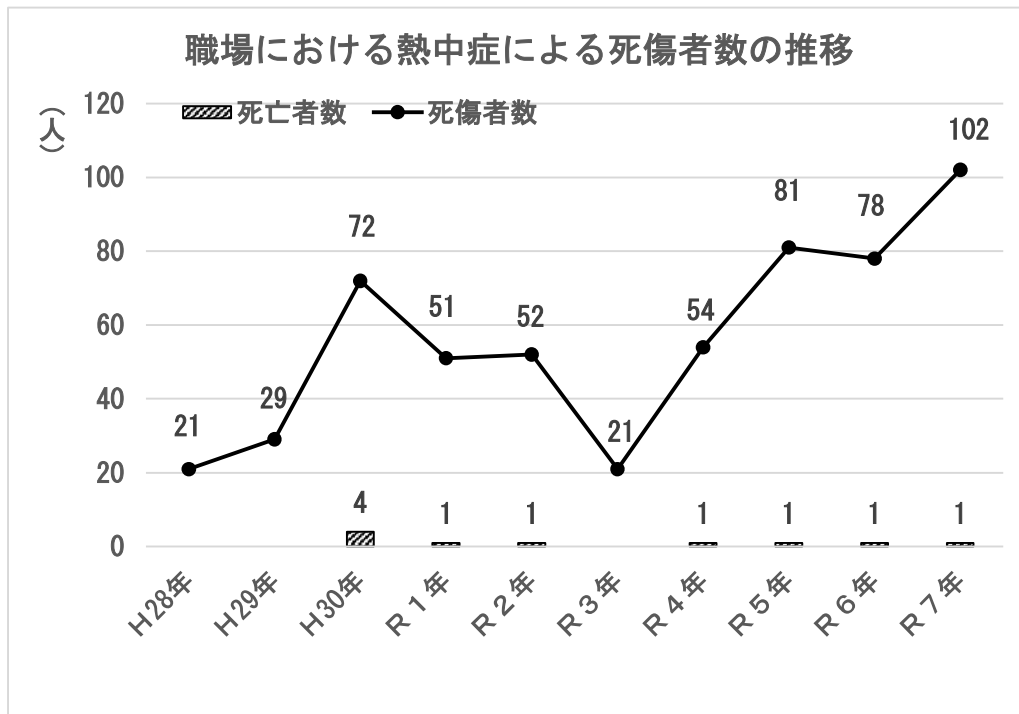
過去10年間の熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、以下のとおりです。

令和7年の死傷者数は102人と、前年に比べ大幅な増加となりました。また、死亡災害も4年続けて発生しました。

職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

| H28年 | H29年 | H30年 | R1年 | R2年 | R3年 | R4年 | R5年 | R6年 | R7年 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 21 (0) | 29 (0) | 72 (4) | 51 (1) | 52 (1) | 21 (0) | 54 (1) | 81 (1) | 78 (1) | 102 (1) |

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。また、R7年は令和8年4月8日現在の暫定値となっています。



2 業種別発生状況

過去5年間（令和3～令和7年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、最多は建設業で、これに運輸交通業と貨物取扱業を合わせた運送業、製造業、警備業

などが続いています。

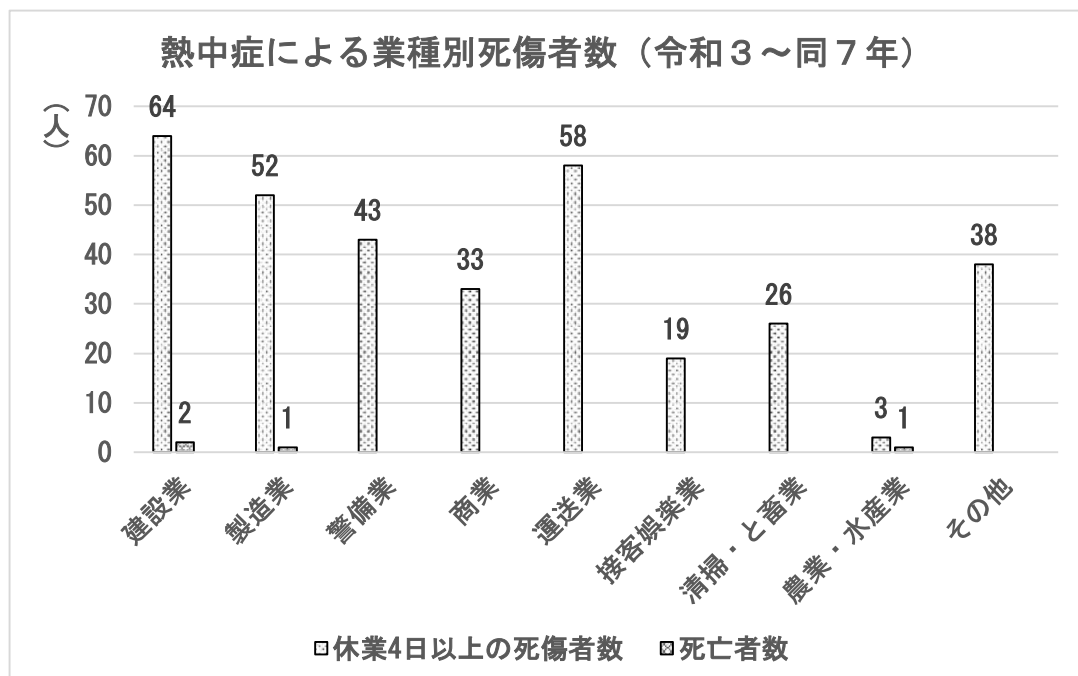
なお、警備業における熱中症災害の大半は、建設工事現場での交通誘導業務におけるものです。

令和7年は、上記の熱中症災害多発業種のうち警備業（2.5倍）で大幅に増加しましたが、建設業では約5割増加、製造業では3割増加しています。逆に、運送業では約2割減少しています。この4業種で全体の約6割を占めています。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（令和3～同7年）（人）

| | 建設業 | 製造業 | 警備業 | 商業 | 運送業 | 接客 娯楽業 | 清掃・ と畜業 | 農業・ 水産業 | その他 | 計 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|------------|
| R3年 | 3 (0) | 5 (0) | 4 (0) | 1 (0) | 3 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 3 (0) | 21 (0) |
| R4年 | 11 (1) | 7 (0) | 12 (0) | 8 (0) | 7 (0) | 3 (0) | 4 (0) | 0 (0) | 2 (0) | 54 (1) |
| R5年 | 18 (0) | 17 (0) | 6 (0) | 6 (0) | 19 (0) | 3 (0) | 3 (0) | 1 (1) | 8 (0) | 81 (1) |
| R6年 | 13 (0) | 10 (1) | 6 (0) | 6 (0) | 16 (0) | 5 (0) | 7 (0) | 0 (0) | 15 (0) | 78 (1) |
| R7年 | 19 (1) | 13 (0) | 15 (0) | 12 (0) | 13 (0) | 7 (0) | 11 (0) | 2 (0) | 10 (0) | 102 (1) |
| 計 | 64 (2) | 52 (1) | 43 (0) | 33 (0) | 58 (0) | 19 (0) | 26 (0) | 3 (1) | 38 (0) | 336 (4) |

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数です。



3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況

令和3年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の約4割が8月に発生し、これに7月発生分を合わせると全体の約8割となっています。

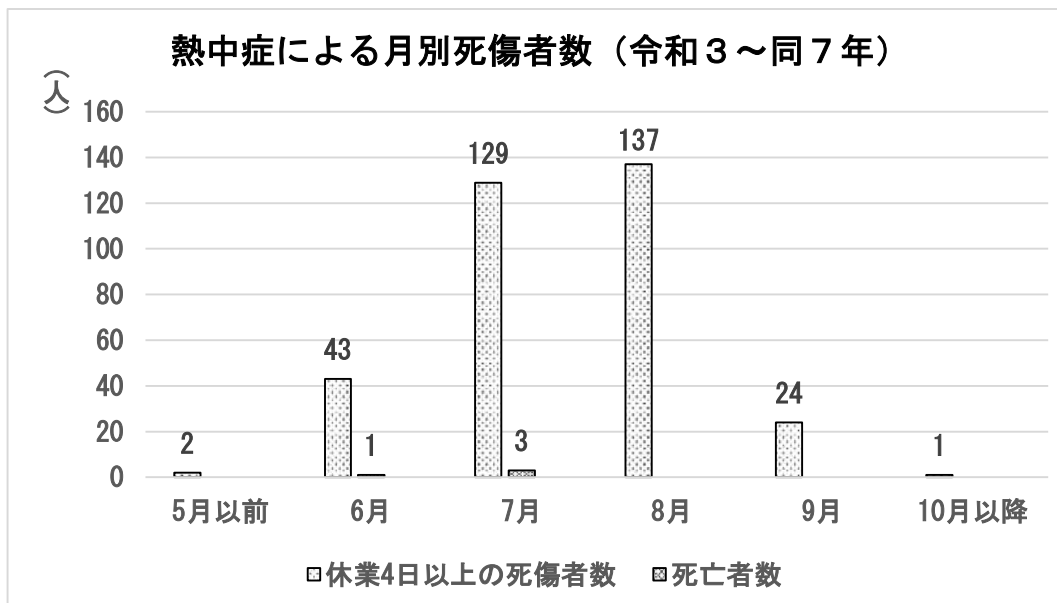
また、死亡災害4件は6月から7月に発生しています。

令和7年は、過去5年間の傾向どおり7月、8月に集中し、死亡災害は7月に発生しました。また、発生日の最も早い災害は6月上旬で、最も遅いものは10月中旬でした。

熱中症による死傷者数の月別の状況（令和3～同7年）（人）

| | 5月以前 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月以降 | 計 |
|-----|----------|-----------|------------|------------|-----------|----------|------------|
| R3年 | 0 (0) | 1 (0) | 6 (0) | 13 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 21 (0) |
| R4年 | 1 (0) | 17 (1) | 14 (0) | 20 (0) | 2 (0) | 0 (0) | 54 (1) |
| R5年 | 1 (0) | 6 (0) | 34 (1) | 37 (0) | 3 (0) | 0 (0) | 81 (1) |
| R6年 | 0 (0) | 2 (0) | 46 (1) | 24 (0) | 6 (0) | 0 (0) | 78 (1) |
| R7年 | 0 (0) | 17 (0) | 29 (1) | 43 (0) | 12 (0) | 1 (0) | 102 (1) |
| 計 | 2 (0) | 43 (1) | 129 (3) | 137 (0) | 24 (0) | 1 (0) | 336 (4) |

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数です。



(2) 時間帯別発生状況

令和3年以降の時間帯別の死傷者数をみますと、11時台で最も多く発生し、9時台以前と続き、その次に15時台・10時台・14時台と僅差が続いています。日中だけでなく9時台以前及び18時台以降にも多数発生しています。

また、日中の現場作業終了後に会社事務所に戻ってから、又は帰宅してから体調が急変・悪化したというケースもありました。

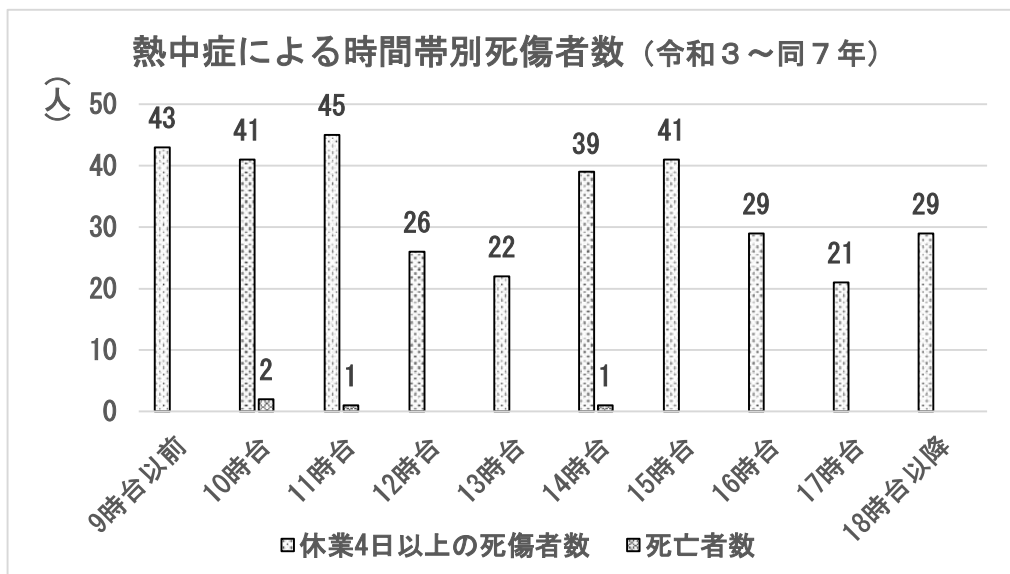
令和7年は、15時台の発生が最も多くなっていますが、比較的涼しい時間帯でも油断できない状況となっています。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況（令和3～同7年）（人）

| | 9時台以前 | 10時台 | 11時台 | 12時台 | 13時台 | 14時台 | 15時台 | 16時台 | 17時台 | 18時台以降 | 計 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| R3年 | 0 (0) | 3 (0) | 4 (0) | 3 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 2 (0) | 2 (0) | 3 (0) | 3 (0) | 21 (0) |
| R4年 | 11 (0) | 5 (1) | 6 (0) | 0 (0) | 4 (0) | 10 (0) | 8 (0) | 2 (0) | 2 (0) | 6 (0) | 54 (1) |
| R5年 | 10 (0) | 6 (0) | 13 (0) | 8 (1) | 6 (0) | 8 (0) | 7 (0) | 9 (0) | 4 (0) | 10 (0) | 81 (1) |
| R6年 | 10 (0) | 13 (1) | 10 (0) | 3 (0) | 5 (0) | 9 (0) | 8 (0) | 8 (0) | 7 (0) | 5 (0) | 78 (1) |
| R7年 | 12 (0) | 14 (0) | 12 (0) | 12 (0) | 6 (0) | 12 (1) | 16 (0) | 8 (0) | 5 (0) | 5 (0) | 102 (1) |
| 計 | 43 (0) | 41 (2) | 45 (0) | 26 (1) | 22 (0) | 39 (1) | 41 (0) | 29 (0) | 21 (0) | 29 (0) | 336 (4) |

※ 9時台以前は0時台～9時台、18時台以降は18時台～23時台を指します。

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数です。



4 令和7年の熱中症による死傷災害の特徴

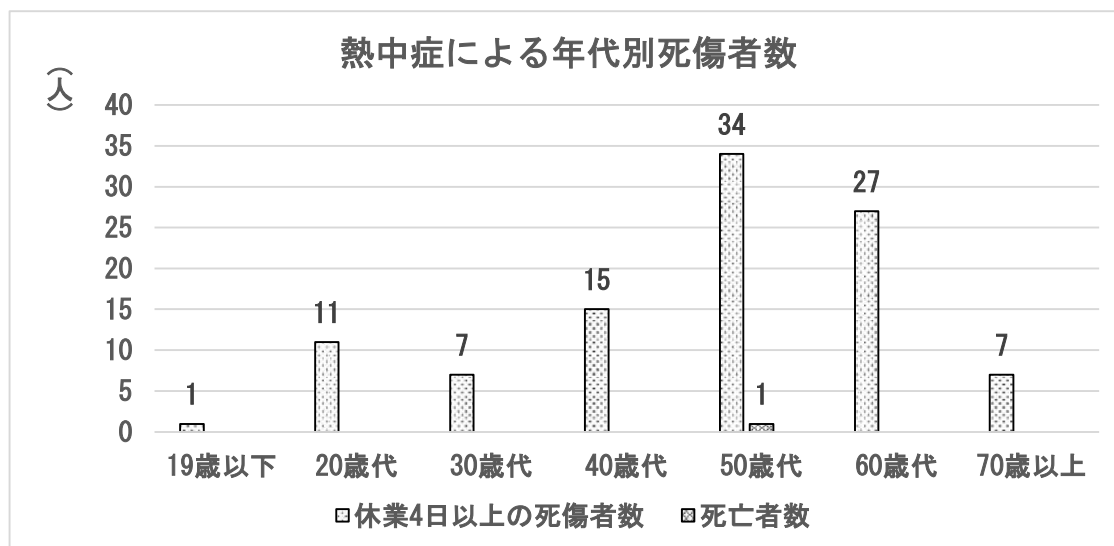
(1) 年代別の発生状況

年代別の死傷者数をみますと、例年、50歳以上の被災者の割合が全体の5割を超える状況が続いていましたが、令和6年・令和7年と、50歳以上の被災者の割合が約65%と、この傾向がより顕著になっています。

熱中症による死傷者数の年代別の状況

| | 19歳以下 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 | 計 |
|---------|-------|------|------|------|-------|------|-------|--------|
| 死傷者数(人) | 1 | 11 | 7 | 15 | 34(1) | 27 | 7 | 102(1) |
| 割合(%) | 1% | 11% | 7% | 15% | 33% | 26% | 7% | 100% |

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数です。



(2) 屋外作業・屋内作業別の発症状況

令和7年における屋外作業又は屋内作業の作業別発生状況は、前年（令和6年）よりも若干、屋外の割合が減り、屋外作業が約6割（前年は3分の2）、屋内作業が約4割（前年は3分の1）となりました。

また、例年、製造業は作業別で屋内作業の割合が高い業種であり、令和7年もこの傾向は変わらず、屋内作業での発生が多くなっています。

令和7年の熱中症の約4割は屋内作業で発生していますが、炉や厨房等といった特別な熱源はなくても、窓等がないか、あっても締め切っているといった部屋や倉庫等の通風が不十分で高温多湿になる危険性の高い環境下において多発しています。

屋外作業はもとより、屋内作業においても、熱中症予防対策にしっかり取り組む必要があります。

なお、エアコンが設置されている屋内作業場においても、エアコンが壊れて

いたり、調子が悪かったことから熱中症を発生した災害が令和7年において4件発生しており、熱中症とは縁がないと考えている事業場においても対策を立てておく必要があります。

5 令和3年以降の熱中症による死亡災害の概要

| 番号 | 発生年月 発生時刻 | 業種 事業場規模 | 起因物 事故の型 | 発生概要 |
|----|--------------------|---------------------------------------|--------------------------------|---|
| 1 | 令和4年 6月 10時頃 | 建築工事業 ～9名 | 高温、低温環境 高温・低温の 物との接触 | 2階建て木造住宅の外部足場を約1時間かけて解体した後に、熱中症による体調不良となり病院へ搬送されたが十数日後に死亡した。 発症時は気温31.7℃、湿度59パーセント(WBGT値27℃相当)であった。 被災者は入社以降の現場作業が通算3日目であった。 |
| 2 | 令和5年 7月 12時頃 | 農業 ～9名 | 高温、低温環境 高温・低温の 物との接触 | 被災者は、10時の休憩後、スポーツ施設敷地内で剪定等の植栽管理作業を一人で行っていた。休憩まで一緒に作業をしていた代表者が現場に戻り、倒れている被災者を発見、救急搬送されたが熱中症により死亡した。 |
| 3 | 令和6年 7月 10時頃 | その他の製造業 (クリーニング業) 100人～299人 | 高温、低温環境 高温・低温の 物との接触 | 工場内で作業中、体調が悪くなり、熱中症の疑いがあったことから病院に搬送された。診察の結果、脱水症状及び血圧低下の診断を受け入院したが、翌日の朝、熱中症を原因とした急性心筋梗塞で死亡した。 |
| 4 | 令和7年 7月 14時頃 | その他の建設業 ～9名 | 高温、低温環境 高温・低温の 物との接触 | 被災者は同僚と共に午前8時頃から農業用ハウス内において給水用の配管工事に従事していた。正午から1時間の昼休憩を取り、午後1時に作業を再開。午後1時30分頃、被災者の体調が悪そうだったので、同僚が車の日陰に行き休憩するよう促した。10分程度経っても戻って来なかったため、同僚が見に行ったら、車の後部で倒れている被災者を発見。病院へ救急搬送され、その後別の病院に転院したが、約2か月半後に死亡した。 |